

sweave

宮崎

2014 年 1 月 12 日

Campbell and Mankiw (1990); 坂井・瀧本 (2010) を参考にする。  
はじめに, 乱数を発生させ, 回帰を実施する.

```
> x <- runif(100)
> y <- 10 + 2 * x + rnorm(100)
```

結果を実行すると以下のとおりである.

```
> result <- lm(y~x)
```

結果を表 1 にまとめられる. 回帰係数は 1.894 である. 結果は図 1 にまとめられる

## 参考文献

- Campbell, John Y. and N. Gregory Mankiw (1990) “Consumption, Income, and Interest Rates: Reinterpreting the Time Series Evidence,” NBER Working Paper 2924, National Bureau of Economic Research, Inc.
- 坂井吉良・瀧本太郎 (2010) 「消費のランダム・ウォーク仮説と恒常所得仮説の検証について」, 『政経研究』, 第 47 巻, 第 1 号, 352-332 頁, 6 月.

表 1 回帰結果表

	Estimate	Std. Error	t value	Pr(> t )
(Intercept)	10.206	0.215	47.578	0.000
x	1.894	0.347	5.454	0.000

図1 回帰結果図

### 関係図

